

## 2021 年度事業報告 附属明細書

附属明細書 1 会員一覧

附属明細書 2 主催セミナーに関する事項

附属明細書 3 留学生会館入居状況

附属明細書 4 留学生論文の表彰に関する事項

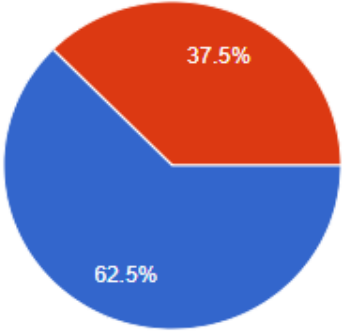
附属明細書 5 留学生対象「日本語論文の書き方講座」に関する事項

## 会員一覧

2022年3月31日現在

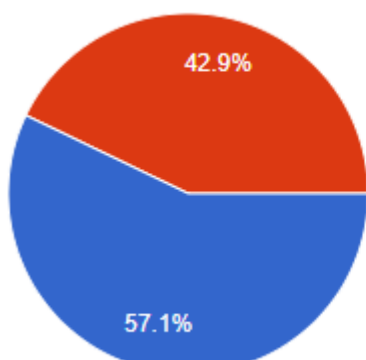
<b>正協力会員名称</b>			
1	東京工業大学	23	東洋大学
2	東京外国語大学	24	日本女子大学
3	東京学芸大学	25	法政大学
4	東京農工大学	26	明星大学
5	お茶の水女子大学	27	立教大学
6	電気通信大学	28	早稲田大学
7	一橋大学	29	東洋英和女学院大学
8	東京都立大学	<b>準協力会員名称</b>	
9	青山学院大学	30	東京工業高等専門学校
10	桜美林大学	31	白梅学園短期大学
11	大妻女子大学	<b>賛助会員名称</b>	
12	慶應義塾大学	32	(株)幼体連スポーツクラブ
13	工学院大学	33	(株)スリーボンド
14	国際基督教大学	34	安藤物産(株)
15	駒澤大学	35	多摩信用金庫
16	芝浦工業大学	36	大成建設(株)
17	上智大学	37	相羽建設(株)
18	創価大学	38	第一屋製パン(株)
19	中央大学	39	ハウコム(株)
20	帝京大学	40	(一社)ジャパンケネルクラブ 川崎ユース犬友クラブ
21	東京工科大学		
22	東京都市大学		

2021 年度事業報告 附属明細書2 主催セミナーに関する事項

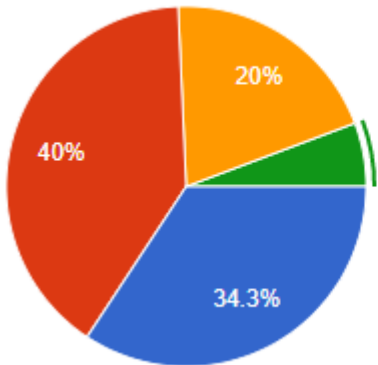
事業名	第 11 回新任教員研修セミナー(オンラインセミナー)
期 日	2021 年 8 月 31 日(月)～9 月 1 日(火)
主 題	With/After コロナ時代のアクティブ・ラーニング」
対 象	教職員
趣 旨	<p>コロナ禍は、遠隔授業への移行を通して、大学教育における ICT の活用とデジタル化という地殻変動を決定づけました。他方、近年の大学教育では、知識や技能の修得とともに、分野や立場の違いを超えて他者と協働できる知性を育むことが求められるようになりました。また、激しい変化の時代を豊かに生き、社会に参加し、貢献していく能力の基盤となるような、学び続ける姿勢や力を培う教育も切実に希求されています。これらは、コロナ禍によっても変わることはなく、むしろその重要性は増すばかりです。</p> <p>こうした期待と要求に応えるべく大学教育に導入されたアクティブ・ラーニングは、導入から量的な拡大という段階を経て、質的深化が問われる時代となりました。コロナ禍により ICT の活用とデジタル化が一気に始まったのは、まさにこのタイミングだったのです。この不可逆的な地殻変動が今後も急速に進んでいくなかで、そのポジティブな可能性を引き出しつつ、さらにアクティブ・ラーニングの質的深化を目指していく必要があります。</p> <p>そこで、第 11 回新任教員研修セミナーでは、with/after コロナ時代にあって、対面かオンラインかを問わず、アクティブ・ラーニングを円滑かつ効果的に実施する上で不可欠な相互理解や人間関係の構築に始まり、発達障害などの困難を抱えた学生への対応に至るまで、アクティブ・ラーニングの基礎、理論、デジタルテクノロジーを活用したファシリテーション、事前の授業設計、様々な実践事例などを体験的に学び、参加者がそれぞれ担当する授業を質的に深化させる機会を提供します。参加者と講師陣、そして参加者どうしの熱い対話は、現場の実践者の視点から新たな大学教育のあり方を探り、創造していく上で、貴重な機会になることでしょう。</p> <p>大学セミナーハウスは、大学教員相互の交流を図ることによってわが国の大学教育の向上・発展に寄与することを目的としており、今年度も学術・文化・産業ネットワーク多摩との共催で国公立大学の枠を越えた本セミナーを企画しました。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。</p>
運営委員・講師	<p>&lt;運営委員兼講師&gt;</p> <p>菊地滋夫 明星大学副学長・人文学部教授          諏訪茂樹 東京女子医科大学看護学部准教授          藤井恒人 東京農工大学グローバル教育院教授          福山佑樹 関西学院大学ライティングセンター准教授          伏木田稚子 東京都立大学大学教育センター准教授</p> <p>&lt;講師&gt;</p> <p>榊原暢久 芝浦工業大学教育イノベーション推進センター教授          村山光子 明星大学次長・明星学苑府中校事務長</p>
定 員	50 名
参加者	<p>36 名(15 大学)</p> <p>(ものつくり大学1名、医療創生大学3名、沖縄県立看護大学2名、岩手県立大学1名、高知県立大学3名、国土館大学4名、駿河台大学9名、前橋工科大学2名、創価大学1名、大阪物療大学2名、中央大学2名、天理医療大学1名、福島大学1名、防衛大学校1名、明星大学3名)</p>
アンケート結果	<p>(回答 32 名)</p> <p>※ 満足 12 名 どちらかという満足 20 名 他 0 名</p>  <p>● 満足している          ● どちらかという満足している          ● どちらかという不満である          ● 不満である          ● わからない</p>

事業名	第 42 回大学職員セミナー(オンラインセミナー)
期 日	2021 年 11 月 20 日(土)
主 題	大学マネジメントを変革するデジタル・トランスフォーメーション(DX)
対 象	主に大学職員
趣 旨	<p>新型コロナウイルス感染症は、世界のあり方に大きな変革をもたらしました。ニューノーマルにおける大学の姿についてもまた、現在なお模索状態がつづいています。教育再生実行会議第十二次提言「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」(2021.6)のなかでも、これからの大学のあり方について、学修管理システム(LMS)等の ICT や遠隔・オンライン教育の活用など教育のデジタル化の進展、ICT の活用による多様な学修者(学修困難者)に対する質の高い高等教育機会の提供等に加えて、ICT 活用の利点を生かした大学経営の合理化・効率化、すなわち大学マネジメントの DX の必要性について指摘されています。</p> <p>その一方で、DX が直面する問題点について、先行する産業界の経験を通じてすでに明らかになりつつあります。そこで指摘されている典型的な失敗ケースが、戦略を欠いた技術起点の導入、外部事業者からの提案の鵜呑み・丸投げ、情報システム部門任せ、自己目的化するシステム導入、付随するビジネスプロセスの刷新に対する現場サイドの抵抗などです(経済産業省『DX 推進ガイドライン』)。失敗に学び、「業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立する」という DX 本来の目的を達成するため、我々は、どのようにしてマネジメントシステムの変革を進めていけば良いのでしょうか。</p> <p>本セミナーでは、特定の既存業務を切り出し情報システム(あるいはロボット)に置き換えるという段階を大きく超えて、本来目的の達成に向けて、DX を通じたマネジメントシステム変革を実現するための方策について先進事例を参考として考えていきます。</p>
企画委員・講師	<p>&lt;企画委員&gt;          神山正之 立教大学入学センター&lt;委員長&gt;          青木加奈子 新島学園短期大学事務長          加藤毅 筑波大学大学研究センター准教授          黒田絵里香 慶應義塾塾監局総務部課長・協生環境推進室事務長          田中一平 法政大学総長室付教学企画室課長          渡邊正樹 中央大学学事部企画課課長</p>
定 員	50 名
参加者	<p>36 名(25 大学)          (愛知工科大学1名、杏林大学1名、一橋大学1名、横浜美術大学2名、関西国際大学4名、関西福祉科学大学1名、京都藝術大学1名、昭和音楽大学1名、高崎経済大学1名、札幌市立大学1名、自由学園最高学部1名、実践女子大学2名、女子栄養大学1名、聖泉大学1名、摂南大学1名、千葉大学1名、大阪国際学園1名、大阪商業大学1名、中央大学3名、帝京大学4名、東京女子大学1名、日本歯科大学1名、北海道文教大学1名、明治大学2名、和洋女子大学1名)</p>
アンケート結果	<p>(回答 30 名)          ※満足 16 名 どちらかという満足 13 名 どちらかという、不満である1名 他 0 名</p> <p>● 満足している  ● どちらかという、満足している  ● どちらかという、不満である  ● 不満である</p>

事業名	古田武彦記念古代史セミナー2021(ハイブリットセミナー)																																	
期日	2021年11月13日(土)～11月14日(日)																																	
主題	古田武彦記念古代史セミナー2021																																	
対象	社会人																																	
趣旨	<p>「倭の五王」の時代</p> <p>昨年開催した「古田武彦記念古代史セミナー2020」では卑弥呼の時代(3世紀)に焦点を当てましたが、今年は、「倭の五王」の時代(5世紀)に焦点を当てることにしました。</p> <p>私は子供の時から歴史に興味がありましたが、日本古代史に強い関心を抱いたのは、大学1年生の時に井上光貞助教授(当時)の講義を聴いたときからでした。井上先生は講義の中で「倭の五王」を採り上げられ、「讚≡仁徳又は履中」「珍≡反正」「済≡允恭」「興≡安康」「武=雄略」であることを説明されました。しかし、そこで井上先生が挙げられた「=」又は「≡」の根拠理由の殆どが私には「≠」の根拠理由に思えました。例えば、「武の在位期間は478年から502年、雄略の在位期間は456年から479年」は私には「武=雄略」の根拠ではなく「武≠雄略」の根拠に思えました。1959年のことでした。しかし、それ以上深く疑ってみることはありませんでした。</p> <p>私が次に「倭の五王」に興味を持ったのは、古田先生の第2書『失われた九州王朝』(朝日新聞社 1973年8月8日発行)に接した時でした。物語として古代を語るのは夢がありこの上なく楽しいのですが、古代史学においては科学的な「史実」の確認が基本であり、その作業はevidence-basedでなければなりません。古田先生は『失われた九州王朝』において、「倭の五王」の時代を含めて九州王朝に関するevidence-based historyを垂範して下さいました。</p> <p>とはいえ、「倭の五王」の時代は卑弥呼の時代に比べて情報量が少なく、同時代史料といえるものは『宋書』と高句麗好太王碑くらいしか知られていません。そのために、「倭の五王」が「どこにいたか」「何をしたか」に関するevidence-basedな解明が進んでいないと言わざるを得ません。</p> <p>その様な中であって、河内春人先生の近刊『倭の五王 王位継承と五世紀の東アジア』(中公新書 2018年1月25日発行)は、「倭の五王」の時代を学ぶ者にとって必読の書であると考え、河内先生に特別講演をお願い致しました。</p> <p>このセミナーでは、河内先生のお話をお聴きし、『失われた九州王朝』をもう一度読み返すことにより、古田先生の古代史学の研究方法を再確認した上で、「倭の五王」の時代のevidence-based historyについて建設的な議論が盛り上がることを期待しています。</p> <p>このセミナーは、研究者のみならず、古代史に関心を持つ全ての人を歓迎します。このセミナーが、若い人々が真実の古代を覗く窓になれば幸いです。</p> <p>このセミナーは、大学セミナーハウスと多元的古代研究会、東京古田会、古田史学の会及び古田史学の会東海が共同で開催します。</p>																																	
実行委員・講師	<p>&lt;実行委員&gt;</p> <p>荻上紘一・大越邦生・大墨 伸明・荻野谷正博・橘高修・竹内強・西坂久和・富川ケイ子・和田昌美</p> <p>&lt;特別講演講師&gt;</p> <p>河内春人(関東学院大学経済学部准教授)</p>																																	
定員	60名																																	
参加者	63名(社会人:会場 34名 オンライン 29名)																																	
アンケート結果	<p>◇回答(会場 12名)</p> <table border="1"> <caption>会場アンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足</td> <td>6名</td> <td>50%</td> </tr> <tr> <td>どちらかというど満足</td> <td>1名</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>どちらかというど不満</td> <td>2名</td> <td>15%</td> </tr> <tr> <td>分からない</td> <td>2名</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td>2名</td> <td>14%</td> </tr> </tbody> </table> <p>◇回答(オンライン 27名)</p> <table border="1"> <caption>オンラインアンケート結果</caption> <thead> <tr> <th>満足度</th> <th>人数</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足している</td> <td>12名</td> <td>44.4%</td> </tr> <tr> <td>どちらかというど、満足している</td> <td>11名</td> <td>40.7%</td> </tr> <tr> <td>どちらかというど、不満である</td> <td>3名</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>分からない</td> <td>1名</td> <td>3.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>● 満足している ● どちらかというど、満足している ● どちらかというど、不満である ● 不満である ● 分からない</p>	満足度	人数	割合	満足	6名	50%	どちらかというど満足	1名	7%	どちらかというど不満	2名	15%	分からない	2名	14%	無回答	2名	14%	満足度	人数	割合	満足している	12名	44.4%	どちらかというど、満足している	11名	40.7%	どちらかというど、不満である	3名	11.1%	分からない	1名	3.8%
満足度	人数	割合																																
満足	6名	50%																																
どちらかというど満足	1名	7%																																
どちらかというど不満	2名	15%																																
分からない	2名	14%																																
無回答	2名	14%																																
満足度	人数	割合																																
満足している	12名	44.4%																																
どちらかというど、満足している	11名	40.7%																																
どちらかというど、不満である	3名	11.1%																																
分からない	1名	3.8%																																

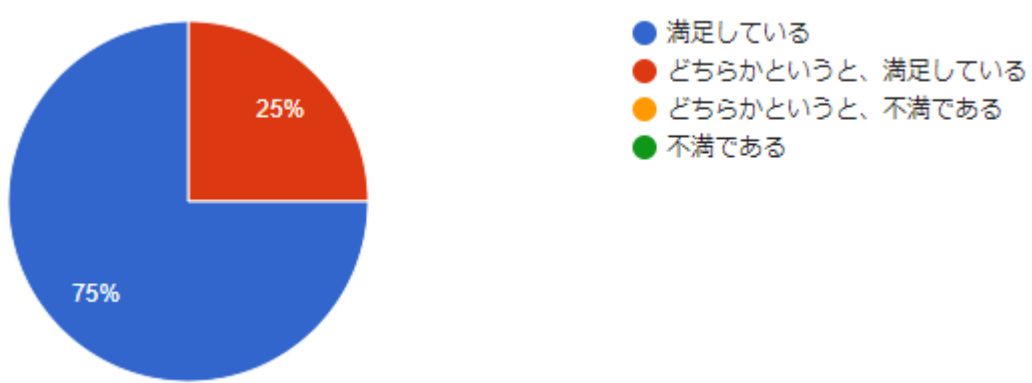
事業名	憲法を学問するV (オンラインセミナー)
期日	2021年11月27日(土)
主題	憲法理論をまもるー樋口陽一『憲法』1992～2021ー
対象	大学生(大学院生を含む)及び社会人
趣旨	<p>自由民主主義的憲法であるワイマール憲法を素材として、「憲法理論」という知のかたちを示してみせたカール・シュミットは、次のように述べて、「昨日の世界」(シュテファン・ツヴァイク)に形成された彼の「憲法理論」を、まもりつづける選択をした。初版のはしがきを綴った1927年12月から、はや30年の歳月が流れていた。</p> <p>「異なる憲法どうしの比較対照の作業は、ほんものの体系的な見とおし図を手中にしている場合にのみ、有意義である。なぜなら、特殊な思惟モデルについての法学的認識は、そうした見とおし図を通じてのみ可能になるのだから。この意味での体系化に成功した書物は、これぞ典型と呼べるものが存続している限り、時の流れとともに生成する無数の憲法テキストを追いかける必要がない。典型をより明瞭にきわだたせるためには、ここでは後追いの作業をさしひかえる方が、むしろ正しいといえるだろう。」(カール・シュミット『憲法理論』戦後版はしがき、1956年3月)</p> <p>処は変わって極東の日本。いわゆる55年体制の最後の年、1992年の春先に、「憲法理論」という自負を秘めつつ上梓されたその本もまた、「見とおし図」を30年間にわたって維持してきた。冗を去り簡に就いた装幀さながらに、時代の流行には一切おもねることもなく。</p> <p>復活なった今年の「憲法を学問する」は、久方ぶりに最新版が公刊されたばかりのその本をてがかりに、「憲法理論」という知のあり方と、それを「まもる」ということの意味について、参加者とともに考える試みである。素材としての日本国憲法の勉強になるのはもちろんのこと、1冊の本を精読するということの愉しみや、これまで信じて疑わなかったことの自明性が覆される快感、まさしく学問の醍醐味を感じられるような1日にしたいと、講師一同大いに張り切っている。</p>
企画委員・講師	<p>&lt;企画委員兼講師&gt;</p> <p>石川健治 東京大学法学部教授(委員長)</p> <p>蟻川恒正 日本大学大学院法務研究科教授</p> <p>穴戸常寿 東京大学法学部教授</p> <p>木村草太 東京都立大学法学系教授</p> <p>&lt;特別講義講師&gt;</p> <p>樋口陽一 東京大学・東北大学名誉教授</p>
定員	50名
参加者	<p>39名:20名(11大学)、19名(社会人)</p> <p>※11大学:津田塾大学1名、立命館大学2名、京都大学1名、国際基督教大学1名、千葉大学1名、早稲田大学3名、大阪経済法科大学1名、東京大学6名、福島大学1名、放送大学1名、北海道大学2名</p>
アンケート結果	<p>(回答21名)</p> <p>※ 満足12名 どちらかという満足9名 他0名</p>  <p>● 満足している ● どちらかという満足している ● どちらかという不満である ● 不満である</p>



事業名	第9回 EU セミナー(オンラインセミナー)
期 日	2021年9月25日(土)～26日(日)
主 題	EUの連帯とコロナ危機
対 象	大学生(大学院生、留学生を含む)、高校生、社会人
趣 旨	新型コロナウイルスの感染が世界を席卷しました。医学の発達した今世紀、これほどの広範な感染拡大は想像もできなかったことです。ウィルスの猛威を前に new normal という新たな言葉まで生まれました。それは日常生活から国際秩序に至るまでの価値観や行動様式の変化をもたらすかもしれません。そうした中で BREXIT は予定通りに進むのか。欧州経済の立ち直りのカギはどこにあるのか。そして欧州統合はどこに向かうのか。EUの連帯が試されます。
企画委員・講師	<p>&lt;企画委員兼講師&gt;</p> <p>太田瑞希子 日本大学経済学部准教授</p> <p>押村高 青山学院大学国際政治経済学部教授</p> <p>小久保康之 東洋英和女学院大学国際社会学部教授</p> <p>武田健 青山学院大学国際政治経済学部准教授</p> <p>田中素香 中央大学経済研究所客員研究員・東北大学名誉教授</p> <p>中西優美子 一橋大学大学院法学研究科教授</p> <p>蓮見雄 立教大学経済学部教授</p> <p>福田耕治 早稲田大学政治経済学術院教授)</p> <p>渡邊啓貴 帝京大学法学部教授・東京外国語大学大学院名誉教授&lt;委員長&gt;</p> <p>&lt;特別講演講師&gt;</p> <p>駐日欧州連合代表部公使・副代表 ハイツェ・ジューメルス</p>
定 員	60名
参加者	<p>56名(8大学)</p> <p>※8大学:青山学院大学1名、白百合女子大学1名、都留文科大学1名、帝京大学11名、東洋英和女学院大学6名、日本大学14名、立教大学13名、早稲田大学9名</p>
アンケート結果	<p>(回答35名)</p> <p>※満足12名 どちらかと言うと満足14名 どちらかと言うと不満7名 不満2名(5.7%)</p>  <p>● 満足している ● どちらかと言うと、満足している ● どちらかと言うと、不満である ● 不満である</p>

事業名	第3回アメリカセミナー(オンラインセミナー)
期日	2021年10月16日(土)
主題	コロナ禍が変えるアメリカ、世界
対象	大学生(大学院生、留学生を含む)、高校生、社会人
趣旨	軍事力や経済力で他国を圧倒してきた米国は、このたびの新型コロナ感染の広がりの中で、世界最大の被害国となっている。新型コロナ感染による死者は、2021年2月末の時点ですでに50万を超え、その後も増え続けている。50万という死者数は、2度の世界大戦の死者、ベトナム戦争での死者を加えた数に相当する、凄まじい数字だ。まさに戦争以上の被害を出しているのである。今回のコロナ禍は、アメリカの安全保障、政治外交、社会にもさまざまな影響を与えており、その影響は、相当に永続的なものとなると見込まれる。本セミナーには、5名のさまざまな分野で活躍する講師たちが集い、現在アメリカに起こっている変化を多面的に掘り下げ、受講生との間で徹底的に議論し、今後のアメリカ、日米関係、世界政治のありようを展望する。
企画委員・講師	<p>&lt;企画委員兼講師&gt;</p> <p>三牧聖子 高崎経済大学経済学部国際学科准教授</p> <p>前田幸男 創価大学法学部教授</p> <p>五野井郁夫 高千穂大学経営学部教授・国際基督教大学社会科学研究所研究員</p> <p>峯村健司 朝日新聞編集委員「外交・アメリカ中国担当」・北海道大学公共政策学研究センター研究員</p> <p>高木徹 NHK国際放送局チーフプロデューサー</p>
定員	60名
参加者	<p>38名:32名(12大学)、6名(社会人)</p> <p>※12大学:青山学院大学4名、亜細亜大学1名、桜美林大学2名、国際基督教大学9名、埼玉大学大学院1名、上智大学1名、政策研究大学院大学1名、創価大学4名、高千穂大学6名、東京大学1名、獨協大学大学院1名、明治学院大学1名</p>
アンケート結果	<p>(回答 21名)</p> <p>※満足 16名 どちらかと言うと満足 5名 他 0名</p> <p>● 満足している ● どちらかと言うと、満足している ● どちらかと言うと、不満である ● 不満である</p>



事業名	世界の中の中国と日本—現代中国理解Ⅲ(オンラインセミナー)
期 日	2022年1月8日(土)
主 題	With/Post コロナの中国と世界
対 象	大学生(大学院生、留学生を含む)、高校生、社会人
趣 旨	この講座では、コロナとともにある、またはコロナ後の中国について、その世界との関わりを踏まえて考察することを目的とする。中国は共産党成立百周年を契機に全面小康社会が実現したとし、経済政策の面で「双つの循環」政策をとり、共同富裕と呼ばれる政策目標を設定している。対外的には、2049年の中華人民共和国の百年に際してアメリカに追いつくという目標を設定し、外交、軍事両面で積極的な政策を採用しながらも、現段階では気候変動などでアメリカとの協力を模索し、また CPTPP に参加申請をするなど自由貿易を支える姿勢を示している。このように、中国のことはある意味でわかりにくい面があるし、またコロナ下、あるいはコロナ前後で状況は急速に変化している。日本と中国との関係も、「新時代」という共通の言葉を踏まえて、どのように構想されていくのか。この講座では、こうした状況を踏まえて、「四つの大きな問い」を設定し、それを中心にしたグループ討論などを通じて、中国に迫る手がかりを得ることを目指す。
企画委員・講師	<p>&lt;企画委員兼講師&gt;</p> <p>川島真 東京大学大学院総合文化研究科教授  小嶋華津子 慶應義塾大学法学部教授  金野純 学習院女子大学国際文化交流学部教授  森路未央 大東文化大学外国語学部准教授</p>
定 員	50名
参加者	22名:14名(8大学)、社会人8名 ※学習院女子大学3名、上智大学1名、大阪芸術大学1名、大阪大学1名、大東文化大学1名、東京大学4名、明治学院大学1名、八王子市学園都市大学2名
アンケート結果	<p>(回答12名)  ※満足9名 どちらかと言うと満足3名 他0名</p>  <p>● 満足している  ● どちらかと言うと、満足している  ● どちらかと言うと、不満である  ● 不満である</p>

2021 年度事業報告 附属明細書3 留学生会館入居状況

1. 2022 年 3 月 31 日現在入居状況

学校名	所属			計	性別	
	大学院生	学部生	教授		男性	女性
東京都立大学		2	1	3	3	
東京工科大学		1		1		1
合計		3	1	4	3	1

2. 国別留学生数

国名	計	大学院生	学部生	教授
中国	1		1	
フランス	1		1	
インド	1		1	
エジプト	1			1
合計	4		3	1

## 2021 年度事業報告 附属明細書4 留学生論文の表彰に関する事項

留学生論文コンクールは留学生の日本語による論文作成能力を向上させる機会を提供するとともに、日本留学の成果を発信し、国際相互理解及び国際交流を促進することを目的に 2009 年度から実施している。

1、応募作品数:27 作品

2、応募者内訳

(1)大学数:23 大学

(2)国籍:7 つの国と地域

3、入賞作品一覧

賞別	氏名	大学名	国籍・地域	論題
金	CHOI JEYOON (チェ ジェユン・)	東北大学 大学院医学系研究科	韓国	感染症がもたらした差別、我々はどう向き合うべきか
銀	カン・ユンジ	早稲田大学アジア太平洋研究科	韓国	ウィズコロナ時代のデジタル・ディバイドの拡大とその対策
銅	張佳晏 (チョウ カアン)	東京都立大学 都市環境学部	台湾	氷底湖と急激な気候変動
銅	張 世熙(ジャン セヒ)	琉球大学 人文社会学部	韓国	持続可能な観光に向けた提言

## 2021 年度事業報告 附属明細書 5 日本語論文の書き方講座に関する事項

### 1. 事業説明

学術的な日本語や論文の書き方の実践的な指導を行うことにより、留学生の学力や研究能力の向上に寄与したいと考えて 2020 年度より講座を開講したが、受講が特定の留学生に偏った結果となり、2021 年度をもって中止とすることとした。

### 2. 指導内容

レジュメ作成、レポート執筆、卒業論文執筆、修士論文執筆、博士論文執筆、査読論文執筆、研究計画書執筆、志望理由書執筆、添削指導(ネイティブ・チェック)

### 3. 指導形態 オンライン個人指導

### 4. 講師 1 名

### 5. 2021 年度 受講状況一覧

受講の目的	回数
レポート執筆	11
博士論文執筆	245
卒業論文執筆	2
修士論文執筆	10
研究計画書執筆	24
添削指導(ネイティブ・チェック)	12
査読論文執筆	1
その他	7
<b>計</b>	<b>312</b>

国 別	人数	回数
中国	8	64
台湾	1	244
ベトナム	1	2
韓国	1	2
<b>計</b>	<b>11</b>	<b>312</b>

	大学数	院・学部別人数	受講回数	
会員校	3	大学院	2	261
		学部生	6	32
一般校	3	大学院	1	6
		学部生	2	13
<b>計</b>	<b>6</b>	<b>11</b>	<b>312</b>	